

I 総括的概要

平成 21 年度の幕開けは「新型インフルエンザ」の感染が兵庫県で確認され、観光客が激減したほか経済活動にも著しい影響が出たことから始まった。商工会議所も対策室を設置、情報収集に努め会員に正確な情報発信を行った。幸い「新型インフルエンザ」は弱毒性のものであり、症状が季節性と比較しても脅威とはならなかった。反面経験の乏しいパンデミックへの対応であったため、風評被害や過剰反応など地域社会に与えた打撃は予想以上に大きいものがあった。商工会議所会員へは昨年度より「新型インフルエンザ」への知識普及を目的に複数回講習会を開催したことや、会議所報等での普及啓発に積極的に取り組んだ結果大きな混乱は発生しなかった。

中盤は戦後初の総選挙による政権交代が実現した。景気の低迷や経済活動の閉塞感などが影響したのか、国民の意思として変化を求めた結果だと思われる。国民の期待を一身に受け新政権が発足し、驚異的な支持率に支えられ力強く始動した。平成 21 年度末には支持率は戦後発足内閣では最大の下降率で急落、二転三転する方針や悪化する日米関係、古典的政治スキャンダルの噴出など政権への期待は薄れる一方である。中央での政策が総じて見え難いというのが率直な感想である。

大混乱の様相を呈している本年であったが、宝塚商工会議所は創立 10 周年の節目の年でもあった。当所は商工会時代からの先人の足跡を実感し、多難な道のりを支えあって共に歩いた人々を称えあい、多くの関係者に感謝の意を表し今日在るを喜び合うことができた。困難を乗り越えるのに必要なものは創立の精神である「互助互惠」であることを再認識し、商工会議所に集う意味を確認しあう年でもあった。

顧みれば平成 21 年度は初めて経験することが多い年であったと言える。会員企業は国内外の複合的な要因による不況感の真っ只中にあり、創立 10 周年の意義は会員の繋がり無くして地域活力は生まれないと原点への回帰であった。新たな時代を会員の団結力で切り開く意を強くした一年であった。主な成果は次の通りである。

1. 宝塚経済活性化の政策・要望活動の積極的展開

(1) 「宝塚市産業活性化推進会議」の運営

企業立地・企業誘致等の政策立案や北部開発等地域課題を総合的に整理することを目的とし、経済活性化常任委員会を中心に研究した。具体的には宝塚市幹部と正副会頭との協議を持ち、継続開催等共通認識を得た。

2. 産業活性化策の積極的推進

(1) 地域活力増進事業の推進

① 「商人塾」の開催

昨年度に引き続き大型店出店対策の一環として“宝塚まちなか商業”の活性化を目指し、今年度は「IT活用術」をテーマにした取り組みの中で講座を開催し活動内容の充実に努めた。

(2) 創業・起業支援事業の促進

①「起業（創業）何でも相談」の開催

地域内に潜在する起業をめざす人々の起業意欲を喚起するために定期的に相談日を設け、より実効性の高い事業として発展させた。また、(株)日本政策金融公庫との共催とし、起業支援を具体的に実施した。

(3) 社会インフラ等対応促進事業の推進

①宝塚彩発見サロンの運営

経済活性化常任委員会の調査研究事業ならびに講習会等への参加を通して意見等を述べ、活動を積極的に支援し寄与した。

②地上デジタル放送研究事業の調査研究

調査研究の過程において「近未来宝塚」としてのITが変える都市生活という側面に着目し、創立10周年の記念講演会として研究発表した。

3. 組織の基盤強化

(1) 会員増強運動の展開

「地域のつながり力の強化」をテーマに増強に努めた。特に、役員議員からのご紹介を中心に加入勧奨を図った。

(2) 会員福利厚生事業の充実

会員参加型事業の推進を基本として本年度も事業を展開、特に具体的事業として「事業参加券」を発行し多くの会員参加を促す事業に取り組んだ。

4. 中心市街地活性化への支援

宝塚市が国に提出し認定を受けた基本計画の進捗を当協議会が検証し、特にまちづくりの「担い手」である宝塚まちづくり(株)によりリニューアルされた商業施設に期待を寄せていたが、遺憾ながら宝塚まちづくり(株)の倒産という事態をふまえ、倒産に至った経緯等を検証情報の共有を図った。

5. 創立10周年記念事業の実施

(1) 創立10周年記念式典・記念祝賀会の実施

多くの会員企業の地域への貢献や支援に対し、感謝の意を表し合わせて地域の繋がりや支えあう会員意識を再確認する場となった。これからの10年への思いを新たにし商工会議所の存在する意義を共有する記念式典を挙行することができた。

(2) 創立10周年記念誌『NEXT DOOR』の発行

商工会議所発足以来の足跡のみならず前進団体から営々と伝承された組織の記憶を中心に編纂し発行した。

(3) 海外視察研修の実施

北欧への研修を実施。環境先進地であることや福祉施策の実践などの研修を中心に、フィンランドとスウェーデンを視察。特に、ストックホルム郊外のハンマルビー地区の開発が白眉であった。広大な工場跡地を完全なりサイクル都市として開発中の未来都市の方向を示すものであった。

(4) 「近未来宝塚」研究発表

芸術・文化の産業化や新たな産業分野を中心に今後の宝塚市の産業軸について提案がなされ、各産業分野とデジタルコンテンツとの連携が切り拓く将来について示唆に富む研究成果が発表された。

(5) 「だいすき宝塚」推進事業

①緊急経済対策事業 ～「(仮称) がんばろう！宝塚」

商工会議所活動の根幹をなす運動として位置づける議論がなされ、今後の重要課題として特別委員会の設置が検討され次期以降に継承された。

②書籍『私の宝塚』の発行

風化する都市の記憶を記録する記念事業として『私の宝塚』と題して一冊の本にまとめて出版した。内容としては広く記事を一般公募し、個人の記憶に残る多様な都市の歴史を残すことが出来た。市内の書店で販売し好評を博した。

③専門相談強化月間の実施

会員の専門知識を無償で提供する取り組みを実施、広く会員を始め市民へも相談会を開放。多方面にわたる相談範囲を提供し、専門分野に携わる業務分野を無償で提供することで気軽に相談できることを実感し、合わせて日頃の不安や悩みの解消に寄与することができた。

6. 「だいすき宝塚」推進事業 ※(1)、(2)、(5)は5. 創立10周年記念事業の報告で記載

(1) 緊急経済対策事業 ～「(仮称) がんばろう！宝塚」

(2) 『私の宝塚』の発行

(3) 「すまい・るネット宝塚」事業の実施

宝塚市・宝塚マンション管理組合協議会・宝塚商工会議所の三者により意見交換及び講習会の共同運営等を実施。市内の住宅の補修等を中心に市民からの要望の多い市内建設業者による安心な工事を依頼できる機関の設置について検討を継続して行った。

(4) レジ袋削減への取り組み

関係機関との協議をふまえアンケート調査を実施するなど、レジ袋削減にむけての調査研究に取り組んだ。

(5) 専門相談強化月間の実施